

シルバーとよなか

ふれあい

2000年8月

社団法人 豊中市シルバー人材センター

No.31

就任あいさつ



理事長

水上 利夫

平成十二年度総会で、選任いた

だきました新理事会を代表して一言ご挨拶申し上げます。

緊急理事会で、前宮崎理事長の後を受け理事長にご推挙いただきました水上でございます。

役員・委員を始め、会員皆様方のご協力をいただきまして、頑張つてまいりたいと存じますので、よろしくご支援のほどお願いいたします。

ご存じのとおり、センターを取り巻く社会状況、運営環境には非

常に厳しいものがあります。私も平成八年五月から役員として、センターの事業運営に関わつてまいりました。

この間、社会の変化はめまぐるしく従来の運営手法では、社会的な責務を果たせなくなつてきております。

前理事会が会員の皆様方とともに、推進してまいりましたセンターの諸改革は停滞を許しません。私も、シルバー人材センターの事

退任あいさつ



前理事長

宮崎 英二郎

平成十二年度の通常総会にあり退任役員を代表しまして、ご挨拶

を申し上げます。

私が理事として、ご推挙いただきましたのは、昭和六十一年五月でございました。その後副理事長・理事長の大役を仰せつかり、本日退任させていただくことになりました。

この十四年間はさまざまな出来ごとがございました。なかでも印象に残っておりますのが、平成六年十二月にもとの豊中警察署跡から、いま、事務所があります豊中市役所北別館への移転、そして

平成七年一月の阪神・淡路大震災により、多くの会員が被害を受けられたこと、さらに、ここ数年来のセンターを取り巻く社会環境の激変への対応等が、いまあかも走馬灯のようにかけめぐつてるところでございます。

後任の理事長には、経営感覚に優れ、商工会議所等とおし、広く地域社会でご活躍され、シルバー人材センターについても情熱をお持ちの水上氏ですので、安心してバトンタッチができるものと確

業主旨を十分に発揮するため、運営体制の充実強化と就業機会の拡大に向け努力してまいりたいと存じますので、会員皆様方のご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

簡単ではございますが、この場をお借りしまして、就任のご挨拶とさせていただきます。

信をいたしております。

最後になりましたが、何かとご協力を賜りました会員の皆様方にご支援いただきました豊中市に対し心から厚くお礼を申し上げます。今後、当センターのますますの発展と会員皆様方のご健康・ご多幸を心からお祈りいたしまして私の退任の挨拶とさせていただきます。

平成十二年度 通常総会

理事長挨拶

本日は、平成十二年度社団法人豊中市シルバー人材センター通常総会を開催いたしましたところ、市長さんはじめ、ご来賓の皆様方には時節がら誠に多用にもかかわらず、ご臨席いただき、心

んだ景気の低迷もようやく回復の兆しが現われつつあるものの、雇用失業情勢等は依然として厳しく、経済の再生が容易でないことを明らかにしています。

また、私たちを取り巻く社会情勢も、介護保険のスタートや、医療・年金等の社会保障制度のあり方が問われるなど、高齢者にとつて、より一層の自立や責任が求めら

五一九人、前年度に比して、一・五％の増加に止まりましたが、契約高では、景気状況等から落ち込みを心配していたにもかかわらず、前年度に比して七％増の四億二千万円の実績を上げることができました。これも、会員の皆様、市を始め発注者の皆様のご協力とご支援の賜と深く感謝いたしております。

高齢者対策の柱の一つと位置付け、その機能を強化しようとするものであります。当センターにおきまして、こうした動きに合わせ、平成十年度から取り組んでおりますセンターの諸改革を本年度も引き続き積極的に推進し、運営面、就業面でさらなる成果をあげるよう努力いたす所存であります。

本日の総会には、平成十二年度

ご あ い

からお礼申し上げます。

また、会員の皆様には、大変お忙しい中、このようにたくさんご参加をいただき、誠にありがとうございます。

本年度の通常総会を開くにあたり、一言ご挨拶申し上げます。過日の新聞紙上では、長期に及



豊中市長
一色 貞輝

豊中市シルバー人材センターの平成十一年度通常総会が盛大に開催されましたことを、心からお慶び申し上げます。

平素、皆様方には、市政の各般にわたりまして、格別のご支援・



豊中市議会議長
井関 正和

社団法人豊中市シルバー人材センターの平成十一年度通常総会が開催されるにあたり、市議会を代表

れる時代を迎えようとしています。

こうした社会情勢や経済環境は、センターに対しても、運営面や事業面で大きな影響をもたらしているところでございます。

このような情勢下ではあります。が、当センターの平成十一年度事業実績を見ますと、会員数は一、

ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

貴センターは、高齢者の就業と生きがいの場として設立されて以来、順調に発展をされ、着実な成果をあげておられました。

これもひとえに宮崎理事長さんをはじめ、歴代の役員の方々並びに会員の皆様方のためまぬご努力の賜物と、深く敬意を表する次第であります。

今日の急速に進展する高齢化社会の中にありまして、皆様方が豊かな経験と能力を生かされ、共に助け合いながら活力ある地域社会

してお祝いのご挨拶を申し上げます。

皆様方には平素から、市政各般ならびに市議会活動に対し、何かとご支援、ご協力を賜り心から厚くお礼申し上げます。

わが国では、既に人生八十年時代という高齢社会が到来し、健やかで、快適な充実した生活が送れる長寿社会を築くことは、地方自治体にとりましても極めて重要な課題でござります。

ところで、シルバー人材センタ

ー事業の根拠法であります「高齢者の雇用の安定等に関する法律」が改正され、本年十月から実施されることとなります。少子高齢化の社会的背景を受けて六十五歳まで働き続けられる社会を作る中で、

シルバー人材センターの活用を高

ぶくりにご参加をいただき、福祉増進にご尽力されておりますことは誠に意義深いものであります。

特に当市における六十五歳以上の高齢化率は十三％台に達しており、急速に進行する高齢化社会の中で、高齢者が元気で活動される様々な場の整備が促進されるとともにシルバー人材センターの役割も一層高まってくるものと存じます。

本市をとりまく行政環境は大変厳しく、昨年、財政非常事態を宣言致しました。

現在、簡素で効率的な行政の徹

の事業計画等重要な議案を提出いたしておりますので、十分ご審議いただき実りある総会にしたいと思っております。

最後になりましたが、会員の皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、ご挨拶いたします。

底をめざす一方、財政再建対策を鋭意努めているところであります。が、今後とも、市民の皆さんと協働して、活力と魅力にあふれ、三世代が一緒に住み続けたい都市、そしてみんなが集いにぎわう都市づくりを目指して参りますので、皆様方には、引き続き格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、豊中市シルバー人材センターの今後ますますのご発展と、会員の皆様方のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。お祝いのご挨拶と致します。

二十世紀の最後の年を、夢と希望に満ちた未来に向けて邁進できまじよう、努力を傾注してまいりたいと思っておりますので、よろしくご協力を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、社団法人豊中市シルバー人材センターのますますのご発展と、本日も参会のみなさま方のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。お祝いのメッセージといたします。

シルバー・パワーが溢れた 平成12年度通常総会



二十世紀最後の総会は、会場いづばいの会員の参加を得て、五月三十日、アウア文化ホールで開催。

今年の通常総会では、決算や予算、事業計画等に加え、会費の改訂、役員改選が議題となるなど二十一世紀へのステップにふさわしい総会となりました。

総会は、昨年に引き続いて、十八班の金子勝蔵さんの司会で進み、先ず今期で任期を終える宮崎英二郎理事長が挨拶。来賓として公務多忙のなか、出席いただいた一色貞輝市長から、温かい励ましの祝辞が、また司会者から、市議会井関正和議長から寄せられたメッセージの紹介があった。引き続き議長長の選出に移り、議長に十七班江口節信さん、副議長に五班田中ムツ子さんが選ばれた。本年度の総会構成員一、五四七名、出席会員九七四名(うち委任状四七六名)で定款にもとづき、議長が総会の成立を宣言。議事録署名人に、一班青木富雄さん、十四班吉岡弘さんが指名され議事に入った。先

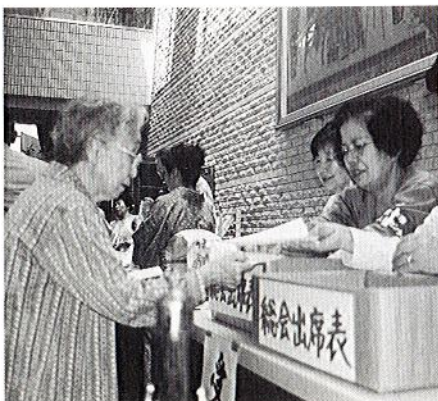
ず、第一号議案、事業報告、第一号議案、収支決算報告については一括して説明がなされ、監事を代表し十一班小森秋男さんから監査報告が行われ、両議案とも異議無く承認された。次に、第二号議案、事業計画案。第四号議案の収支予算案、第五号議案、会費の改訂案については関連していることから一括審議となり提案説明が行われた。特に会費の改訂は厳しい経済情勢、財政環境のなかで、前年度の総会に於ける会費改訂動議にもとづき、会員に対する意見聴取や他シルバーの状況、理事会の慎重な審議等の経過説明がなされた。

会場からは、会費の改訂に関して改訂額そのものについては異論はないが、改訂事由をより明確にしておくべきとの意見があった。改めて社団法人にとつての会費の意味、センター運営のための安定的な財源確保、特に補助金削減の影響等について説明が行われた。答弁のあと三議案は異議も無く可決承認された。引き続き第六号議案の役員を選任が議題となり、「理事・監事選考委員会」の野口高茂委員長(九班)から提案が行われた。今期で退任される理事、監事は、十一名に及ぶこと。一回にわたる委員会での検討経過について、詳細報告があり、新役員として、

重任七名、新任十二名の候補者が紹介された。総会は、「理事・監事選考委員会」の推せん役員を異議なく承認し、退任役員を代表して宮崎英二郎理事長から、役員活動を振りかえつた退任挨拶が行われた。新しく選任された役員は、直ちに緊急理事会を開き、理事長、副理事長、常務理事を選び、総会に報告するとともに、新役員を代表して水上利夫理事長(特別会員)から力強い就任挨拶があり、全ての議事は終了した。

休憩のあと、第二部は、三班近藤絢子さんの司会により「講演と唄」の楽しいひとときをもつた。今年は大坂大学大学院教授の大熊一夫さんをお招きし「わたしのPK大作戦」と題した楽しいトークと素晴らしいバリトンによる歌曲に会場はウツトリ。最後は、会場の会員も一緒に、「夏の想い出」をホールいづばいに響かせ、本年度の通常総会は終了した。

今年も総会の運営、準備に、設営、受付、案内、写真、看板、題字、司会、進行等と全ての面で、多くの会員や同好会がボランティアとして参画いただいた。またホールロビーには、会員の書、写真、絵画、手芸等の力作が並らび、ハイキング、書道、トラベル会に文芸サークル等の同好会活動の紹介もあり、一時は会員で身動きのとれない状況。まさにシルバー・パワーが全開した一日であった。



新役員紹介

五月二十日に開催された通常総会でおこう一年間、法人の運営にあたる理事が選任され、総会の幕間に開催された緊急理事会で理事長、副理事長、常務理事の役員が決まりました。新しい理事会の構成は次のとおりです。

理事長 水上 利夫(新)
副理事長 藤田 泰通(新)
常務理事 中川 善博(再)

理事

宇都宮義典(再)、岡本宗五男(再)
小森 秋男(新)、武井 利雄(新)
高塚準一郎(新)、徳永美恵子(再)
馬場 恵子(新)、平田 彰(新)
平野 明道(新)、弘岡 陽子(新)
行田 尊子(新)、馬場 鉄雄(新)
藤澤 弘明(再)、北野 繁(新)

監事

村田 嘉康(新)、西濱 温夫(新)

退任役員

長い間、役員としてのご奉仕に苦勞さまでした。

理事

宮崎英二郎、山路 政市
織田 照子、林 泰野
吉川武二郎、藤井 健一
藤本 哲夫、飯野 敏雄
小磯 克己、上田 善治
(四月死亡)

監事

古市 恒義、小森 秋男



賛助会員コーナー

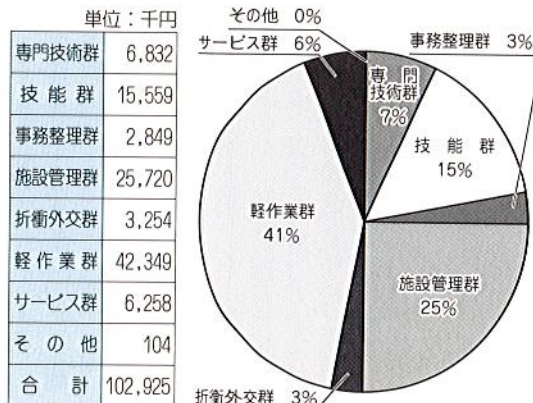
新規賛助会入会者

継続賛助会員

- 矢部 文雄 (上野東)
- 榎加 納 (中桜塚)
- 榎才カキン (原田中)
- 榎渡辺製作所 (名神口)
- 榎一 葉 (本町)
- 榎湯山製作所 (名神口)
- 榎太 鼓 亭 (箕面市)
- 榎大川歯車製作所 (庄内宝町)
- 大阪理研工業榎 (神洲町)
- 榎高尾鉄工所 (島江町)
- 岸岡企業榎 (庄内西町)
- 榎内田スプリング製作所(千成町)
- 東栄精機榎 (浜)
- 三栄源エフ・エフ・アイ榎(三和町)
- 名鉄観光サービス榎 (大阪市)
- 榎イーパツク (日出町)
- 三和ビル榎 (庄内東町)
- 仏光山・如来寺 (箕輪)
- 正光山・浄行寺 (走井)
- やまかつ榎 (大阪市)

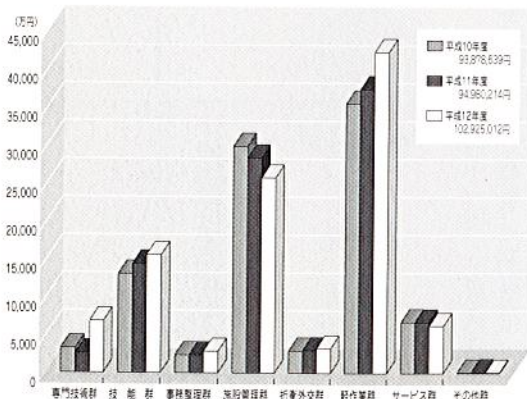
職群別契約金額比較

(四月～六月分合計)



年度別契約金額比較

(各年度四月～六月分合計)





うるおいある21世紀のために
—20世紀後半・外貨獲得に
明け暮れた50年をふりかえって—



第十二班
岡本宗五男

私の学生時代、まだ日本の乗用車が海外に輸出されるかされない頃でしたが、日本貿易会関西本部（現在は東京本部に統合）に嘱託勤務し、卒業後、メーカーの貿易部の創設に携わり、いかにしてわが国の製品を海外に輸出するかについて、東南アジア諸国をはじめ、欧州、中近東、オセアニア、アメリカ、カナダ、中南米諸国に出張・駐在し、自分なりに成果をあげて来た積もりです。ようやく十年程前に第一線を退きました。今は、同じメーカーの国際部にあって海外取引に関わり、国際的販売提携、技術提携契約についてのアドバイスを引き受けています。

「何のための外貨獲得であったのか」
想えば、我が国は戦後五十五年間米ドルという名の外貨を獲得するために、業・官・民 共々大変な努力

と犠牲を払って来たものです。当時日本の年間輸出額は五十三億ドルを達成できなかったが、昨年の日本の国際経常収支が世界一で一〇〇億ドルあまり（一〇六、三〇八三）三〇億ドル（大蔵省）であるのと比べると正に隔世の感があります。今は一ドル＝一〇七、一〇八の水

準ですが、私がヨーロッパにいた学生の頃は、一ドル＝三六〇円で、外貨送金もままならず大変でした。六年前の一九九四年には一ドル＝一〇〇、一九九五年四月には一ドル＝一〇〇、一〇〇後にはようやく一ドル＝一〇〇ということになりました。日本円の価値は往時の三倍以上の値打ち（購買力平価）を持つに至ったわけです。

海外旅行ではその購買力の高さに目を見はられた事と思います。これほどまでして、我々が稼いだ外貨はやはり、安くてよい海外の品物や原材料・製品を入手し、国民の生活を潤すためであった筈なのに私達の日常の生活から豊かさという「おい」が次第に遠ざかっていくように思えてなりません。

ドル安・円高になる度に、日本の企業は必死の思いであらゆる努力をして、この程度の円高であれば何とか競争力が得られるという線にようやく到達すると、そのことは、即、米国にとっては依然として対日輸入が増加していくことを意味するわけですから、あなたもイタチ・ゴツクのように、更なる円高になるよう米国の政府高官は発言するわけです。（ドルについてトーク・ダウンと云うようです。）

「米国のドル防衛戦略はみせかけだったのか」
米国はむしろ日本が輸出でなく輸入拡大・内需拡大をし、米国製品をはじめ諸外国の製品を大いに買ってくれることを期待していることは機会ある度に何回も表明しているところだ。

「基軸通貨国との違い」
米国は日本と違って貿易収支バランスをとらなくても国際的決済通貨ですから、対外決済ができないという事態にならないということも銘記すべきでしょうね。
米国は日本の市場開放を願っているのは、常にドル安・円高にしておきたい。日本には稼いだドルで大いに内需拡大を推進し、米国品を買ってもらいたい。

アメリカに云われなくても、日本国内では一層の内需拡大を促進・喚起する施策が俟たれます。
それには一番手っ取り速いのが消費税の撤廃でしょう。それと、経済活動を阻害する規制の撤廃と税制の改善が不可欠です。

日本の円を世界のキー・カレンシーに育てていく事、取り敢えずアジア諸国での国際決済通貨としての地位を築き、世界の金融市場でキー・カレンシーとして認知されるようにすることが円の安定化をもたらす。日本経済の安定的発展と国民の繁栄を約束してくれるのだと思います。
消費が活発になり、経済活動が盛んになれば、過少評価されている税収も増え、国政の財源を消費税に求めなくても済むようになるのではないのでしょうか。

21世紀はそんな世紀になってほしいものです。

ホームヘルパー養成研修
二級課程を終了して



第十五班
村田 嘉康

昨年十一月十一日、二級課程を終了させていただき、このたび、ひきつづき二級課程の研修機会を与えていただきほんとうにありがとうございました。

本年二月二十一日、北摂七市一町からそれぞれ参加された三十名（うち男性一名）出席のもと「くらし館」での開講式にはじまり、同年三月十七日の閉講式で全員修了証書を受取り、この研修は私にとって内容がもりだくさんで終始大変でした。最後まで頑張れたのも、私達高齢者を相手に若い人達と違って手間がかかるにもかかわらず最後まで熱心に指導をいただいた先生方、そして真面目に前向きにとりくんでおられた仲間の方々のおかげと感謝しております。
つぎに、今回の研修のあらましをふりかえってみたいと思います。
一、講義について—総時間一二〇時間の半分近く五十八時間で分厚いテキストの四冊使用。時には眠気をもよおすこともありましたが、二級のときの下地がありましたから、頭の整

理ができ、理解も十分とはいかなくとも、自分なりにまとめられたと思っております。場所は「くらしの館」で皆さんの評判も良かったです。

二、実技について一四十八時間、豊中看護専門学校で行われ二級のとときと違い時間も長く、覚えねばならぬことも多く、体が思うように動かず苦戦の連続でした。できればもう少し時間がほしかった。後は実戦の機会があれば、その時失敗の体験から学ぶこと。それとホロー・アップ研修への参加だと思っております。

二、実習について一十五時間、特別養護老人ホームグリーンヒルで行う二名が参加、三級の時と違い、時間も長く特に指導される方の姿勢にきびしさを感じました。私達が実戦マンパードにくみいれられているからです。だから即実戦指示だったので戸惑いもありましたが教をこなしていくうちに学ぶことも多くありました。例えば排泄介助、おむつの交換も十回以上続けてやれば要領も少し身につくようになりました。食事介助も同じです。対象人員も多く痴呆で高齢者の方々ですから、スピードと処理能力を要求される所だと思いましたが、時には「アメとムチ」の使いわけも必要だと感じました。時間の短い割に、内容のある勉強ができたと思えます。

まとめ一月並みですが、ホームヘルパーの仕事は利用者という介護を求める弱い立場の人との関係が基本です。従って、しんぼう強く利用者とのコミュニケーションをはかり、いかに信頼を得るかがキー・ポイントだと思います。そのためには、常に思いやりの心もち、頭でなく体で覚えることが必要だと思えます。最後に今後、習ってきたことを活用できる機会がありましたら、お役にたてるよう頑張りたいと思っております。

二級課程研修を終えて



第八班
行田 尊子

昨年に三級ホームヘルパーの講習を受け、もう少し学習したいと思っていたところ受講できる機会に恵まれ、二月終わりから、三月一杯迄勉強することができました。北部地区合同ということで前回は眞面て今回は豊中のくらし館で行われました。朝早くから皆さん一生懸命受講されましたが、それにもまして先生方は介護保険導入直前という超多忙の中なのに熱心に教えて頂きました。皆さんが始めて迎える急激な高齢化社会に、どう対処してゆけば良いかということをしつかり学びました。そしてそれに伴うヘルパーという仕事の大切さ、なくてはならない

存在であることを、あらためて、教えていただきました。

ヘルパーが行う「介護」という仕事は昔は暗いイメージでとらえていました。が、昨今では、もう個人の問題としてほつておくことが出来なくなつたというのが現状です。少子化高齢化の追い討ちですから大変です。元気な老人でも病んでおられる人がいれば、支援するという時期にきていれると思えます。「介護」という言葉のもつ「心身両面への総合的生活支援」なら私達シルバー人材センターの中からでも充分対応できると思えます。在宅支援を希望する高齢者は、家事援助を大変希望されると聞きます。やはり日本人は清潔好きな国民性なのではないでしょうか。

介護は、個人で違いがあります。相手の立場で考え、おこなっていくことが大切なことなのでしょう。今の世の中、目をおおいたくなる出来事はかりです。

皆さんで手を取り合つて、施策のもと、系統だつた介護に当るといふことを、しつかり学びました。ヘルパーの一人として、ナイチンゲール警詞で謳われているように志高く持つて、お世話させていただこうと思つていきます。そして利用者の方が、ひとときでも豊かな気持ちになつていただけるように務めたいと思えます。

利用者の方が喜び私達ヘルパーが誠心誠意仕事が出来たときの満足感、きつとすばらしい生甲斐になることと信じます。

ありがとうございました。

ホームヘルパー

二級の講習を終えて



第九班
田中智恵子

今年もグリーンヒルでの実習。三級の講習のあり、みかけた、身寄りのない六十才の女性の姿はなかつた。童謡を歌つて歩き廻つていたあのおばあちゃんの笑顔は消え、無口で別人のようになっていた。食事の時、「ハイお肉ですよ。」と声をかけてあげる。去年は、右の人、左の人と忙しく口の中に入れてあげている姿が、まるで機械のように見えびつくりした。食事が終わると「ハイ入れ歯を出して、戻して」と三十人の車椅子は戦場だ。スタッツには、十時と三時の休みも無いという。次はおしめの交換と私達にも休みは無かつた。一方、福祉公社の同行訪問実習では、家庭を訪ねるため様子が違う。「おばあちゃん。」と云う若いヘルパーさんは孫娘のようだ。家族のいる家庭は良いが、一人で寝たきりの場合は大変だ。一軒に何人もヘルパーさんが時間差で出入りしている。契約内容によつて行われているが結果はどうであろうか。

私の田も書に脳梗塞で倒れた。三ヶ月で追い出されると云うので期限無しの病院を紹介してもらつた。なんと十八万円請求書。一年で二百拾万、十年でと考える。私が二級の

資格をとり、家で介護出来たらと思
つたが、バリアフリーに直すにもお
金がかかり過ぎる。ベッドには、名
前、年令、〇年入院と書かれている。
十年以上が半数、二十年の人もある。
高い医療費と長期の入院、複雑な思
いだ。しかし病を素直に受け入れ、
病と仲良くする。そう考えると気持
が楽になった。そうだ。スポーツに
お金を使って、汗流し体を鍛え仕事
をしよう。働く時は、相手に喜んで
もらえる仕事をしよう。そしてそれ
を、自らも喜べるように。生んでく
れた親。丈夫に育ててくれた親に日々
感謝して暮らして行きたい。
健康つて素晴らしい。健康さんあり
がとう。

総会のボランティア 運営に参加して



第十八班
金子 勝蔵

平成十一年度の総会が市民会館で
開催され、盛会裡に終了したのは、
記憶にまだ新しい五月二十日でした。
このたびの総会は、会員ボランテ
ィア皆さんの自発的参加により会場
での作品搬入、展示など設営を初め、
開催当日の受け付け、整理、案内、
進行など会員の総会としてのありか
たの一面をみるこが出来ました。
私もボランティアの一員として参加
させていただきました。大袈裟な言

い方ですが、多くの会員さんを眼の
前にして、見知らぬ人達が皆んな友
人なのだとの強い想いと共に、人材
センターの存在の大きさが判つて来
たように感じました。総会を言うま
でもなく全会員の総会意志を決定す
る最高議決機関です。これまでの人
まかせでなく、一人一人が総会の意
義を踏まえて、新年度の事業に取り
組むよう心掛けて行きたいものです。
長引く不況もやや回復し、明るさ
も見えて来たのではないかと言われ
ていますが、依然として見通しは不
透明です。景気の動向と共に、新年
度の事業計画には、なかなか厳しい
ものがあります。

かつて経験したことのない不況の
影響があります。事業の縮小、会社
の合併など、止むを得ず退職された
方が、人材センター会員として参加
されたでしょう。会員の年齢層が
若くなったと聞いております。

私が拝見した限りでは、総会での
皆様の様子は、仕事をしたい想いの
活気ある気配がたのもしく感じられ
ました。

行動力のある会員さんが多く参加
されたことで、総会で決議された平
成十一年度の計画に基づき、昨年に
も増した仕事量に挑戦しましょう。
そしてシルバーの存在をアピールし
たいものです。又その目標は達成さ
れるものと確信しております。



楽しいバスツアーに 参加して



第十八班
織田 照子

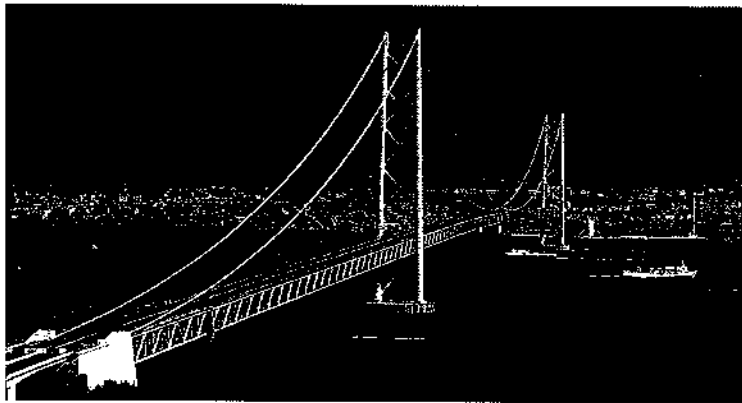
開催されて間もない三月二十四
日花博と中村美律子ショーに参加
させて頂きました。今回は、名鉄
観光主催シルバー人材センター後
援の老人会方式で車は南より庄内
阪本病院前、服部天神前、市役所
螢ヶ池、と各地区を順次立寄り、
約六十名程を乗せた二階建のバス
は皆さんそれぞれの想いととも
に阪神高速を淡路サーブス・エリア
まで直行。この場所から眺める明
石大橋は何時もながら素晴らしい。
小休止の後今日の行程の一番、八
浄寺を訪ねました。花博会場を眼
下に車は南へと走り間もなく到着。
淡路七福神めぐり第一霊場の寺。



秘佛開運大黒天は、高さ二m、ふ
くよかで華やかなお姿の大黒天。
境内には朱と白の幕が色鮮やかな
ひと際目を引く真新しい円型の、
建物。瑜祇七福塔で、平成十一年
十一月十一日午前十一時大吉祥の
日に、落慶。奥の院には不老長生
の庭、五岳連峰の庭があり名庭と
して知られています。十二年前に
訪れた時より境内が広く立派にな
つて、すっかり様変わりしているの
に驚きました。今もなお工事中で
す。今回は時間の都合で御参りす
るのが精一杯でした。八浄寺を後
にいよいよ花博会場へ来ました。
南ゲートで下車。その場でお茶と
弁当を手渡され、ゲート前広場で
記念撮影をして自由行動と成りま
した。

健脚の二名を含め四名の道行き
の始まりです。この日は名鉄観光
だけでも大阪府下より三十数台と
か。はぐれない様に周辺を見なが
ら、先づは野外劇場へ。

先頭の方に並んだ甲斐あつて中
央の一等席に着席。固定席二千芝
生席一千、瞬く間に満席に成り、
中村美律子ショーの始まりです。
舞台からでなく目の前に来て握手
をしたり話したり、親しみのある
唄を七曲程、最後に新曲唄まで手
拍子交じりへ楽しいひとときを過
ごしました。外に出て一寸強い風
を受けて食事を済ませました。い
たる所にテーブルあり椅子ありで、
好都合でした。夢舞台温室は長蛇



の列で途中二人脱落。待つ事しばし、四人揃って集合場所のメインゲート迄歩いて見学しながら行く事に決定。右側に海を望み勾配を利用した花壇や、芝生の丘。左側はホテル、レストラン、野外劇場、温室、国際会議場、等の施設群。

此の国際会議場は別棟に、茶室まで備え、将来はサミットも開ける程の建物とか。中央道は場内遊覧車ユメハツチ号が走り、その道も平坦ではなく傾斜があり、すべて自然をその儘生かし造成されたのがよく分ります。花博の敷地は以前標高一〇〇米の緑の山、それ

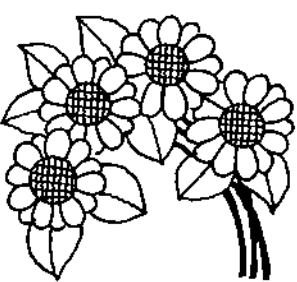
を闊空建設の為、土砂採掘され、自然破壊し周辺の海迄狂わせてしまい、九四年頃から植林が始まったそうです。この花博は自然に戻す序章と聞きました。案内マップにもありました。案内マップにもありました。案内マップにも

を闊空建設の為、土砂採掘され、自然破壊し周辺の海迄狂わせてしまい、九四年頃から植林が始まったそうです。この花博は自然に戻す序章と聞きました。案内マップにも

を闊空建設の為、土砂採掘され、自然破壊し周辺の海迄狂わせてしまい、九四年頃から植林が始まったそうです。この花博は自然に戻す序章と聞きました。案内マップにも



今後此の様な機会があまりし
たら参加をさせて頂きたく思いま
す。有難う御座居ました。



編集のしおり

表紙は、二色になり、夏らしい風景になりました。事務局と業者のご尽力と喜こんであります。

今年は、理事、監事十二名の方が退任されました。長い間ご活躍頂き、心より感謝致しております。今後共ご健勝をお祈りしております。

「ふれあい帽子」は今回も徳永さんをお願いしました。園芸欄は危険の伴う仕事で大変と思いますが、親切にして頂き感謝されていきますので、ご活躍を祈ります。

表紙の写真は、会員の藤田泰通さんに、似顔絵は、会員の山階康雄さんが描いてくださいました。

今夏は、例年にならない猛暑でした。夏号がお手許に届く頃は、夏疲れのピークになると思われますので、充分に休養をとられ、お元気に秋をお迎えになられますようお祈り致しております。

(編集委員長 野口)

同好会だより

ハイキング同好会

ほしだ園地を行く

第十二班 山路 政市

七月八日。曇。出席者二〇名。

此の日は関東地方に台風が接近しており、お天気を心配して迷ったが行く事にする。

私市駅を降り酒店を左折し丁字路を右にまがる。国道一六七号線に出て、左折最初の信号にかかっている八幡橋を渡れば星の里、いわぶねに出る。川ぞいの路を行けば、森林鉄道風歩道橋がある。丸太を組み合わせた見事なものである。橋の下には小道があり、水車がまわっている。全長約二〇〇m、地上一〇mで駐車場とわんぱく広場を結ぶ。歩道橋からの天野川の眺めは最高である。山道を少し行くと団体で使用したクライミングウォールが聳えている。

その前にピトンの小屋(案内所)がある。屋根すじの路を三〇分くらいかけ登った処に吊橋がある。下見の時はぼうけんの路を登り、ちよつと登っては休憩、ちよつと登っては休憩の繰返しである。やつの思いで吊橋まで来たが、みんなと一緒に他の道をくる様にしよう。いよいよ吊橋だ。全長二八〇m、がっしりと力強く作ら

れており、太いロープの手摺りがあるので安心。多少ゆれるが吊橋だから仕方がないところ。殆どの人が始めてで、渡りきってホットする人もいる。最大地上高さ五〇m、下に道があり、歩く人が小さくみえる。木床版吊橋で人道吊橋としては全国的にも最大級である。屋根すじの路を通って、やまびこ広場へ出る。どこの道を通っても森林が多く、曇り空で直射日光は全くなく涼しい感じである。予定より二〇分くらい早く着き、昼食タイムにする。食事の時は輪になって、珍しいものは、どうぞお食べ下さい。滝野さんには、いつも珍しいものを御賞味させてもらいます。みんな家族のようである。誰ともなくおやつが出て、皆で均等に分ける。大坪さんがコーヒを出してくれた。山で飲むコーヒは最高に美味かった。



帰りはまつかぜの路を通って、せせらぎの路を抜けて帰る予定をしていたが、バスの時間が思わしくない午後一本で(五時九分)それまで待てないので、来た道を通って私市まで帰ることにする。今日も元気に行った事に感謝する。

T・シルバートラベル同好会

五年目を迎えたトラベル会

第一班 山田 英明

歳月の過ぎるのは速いものです。去る七月一日は、T・シルバー・トラベル会が誕生して五年目の記念日でした。今年、五周年記念と言う事でいろいろイベントを考へていきましたが突然の上田会長の逝去と云う事態が発生したことで、夏の納涼会や五周年記念行事はすべて取り止めにしました。しかし旅行同好会としては、いつまでも悲しみに沈んでは居られません。亡くなられた上田会長の遺志を継いでますます会員の増員に努力し、シルバーライフをより楽しく有意義に過ごせたらと考へています。トラベル会の役員一同はセンター会員の皆様の一人でも多くの入会をお待ちしています。お友達をお誘いの上ごんごん入会されますよう希望します。T・シルバートラベル会をあまりよくご存じでない方があるように聞きますので、こ

の紙面をお借りして少し宣伝致します。年中行事として年一回の旅行。夏の納涼会に対して冬の忘年会。一年を四季に分けての誕生会。旅行は原則として日帰り一回。一泊が一回。会費は、日帰りが一万円前後。一泊は三万円前後。誕生会は、現在千三百円。納涼会は六千円位。忘年会は八千円位、と言うのが今迄の実績です。因に今春は西浦温泉で大宴会を開いて帰りは徳川美術館、名古屋港とグルメの旅を楽しんできました。今秋は北陸方面が伊勢志摩に一泊グルメの旅を計画しております。多数の方の入会と旅行の参加をお待ちしております。



書道同好会

第二班 鷺崎 俊一郎
自分の作品を誌上で見ると癒しさと面映ゆさを感じます。それは一種の快感です。シルバーならではの「ソレ」を求めてみませんか。

天地日月山川
令九十二 栄園 きみ

第3班 栄園 きみ

望山月 思故郷
山田 徳康

第4班 山田 徳康

観光遊覧旅館
政乃 今村

第13班 今村 政乃

山中 勝美
七月十日
山下 勝美

第17班 山下 勝美

囲碁同好会

第二班 梶浦 武彦
例年通り本同好会では、夏期囲碁大会を七月二十一日(金)に開催し会員十二名が集って楽しく棋戦を行いました。

各位四局の熱戦を繰り広げ、川田さんが優勝、岸本さんが準優勝で大会の幕を閉じました。
次回は来年一月に開催の予定です。

シルバーセンター会員の皆様で囲碁に興味をお持ちの方は、毎週金曜日午後センターの一室をお借りして例会を行っていますので御参加をお待ち致しております。

美術サークル

美術サークル一年の成果

第一班 山階 康雄

発足して一年になり定着された方は、数人ですが着実に絵に対する執着心が実りつつあります。それぞれに仕事を持つておられる関係で出欠がめまぐるしい一年でした。月に二度の出会いを大切にお互いの近況世間話に耽るひとときもあります。今年の春は并当持参で一日スケッチを楽しみ此れからも続けようと思つてます。現在は絵の基本としてスケッチが主で、正確に描く事一本の線の積み重ねで立体的に表現出来る様な勉強でした。モチーフの無い時は手元の

帽子や靴がモデルとなり夢中で描くことしばしば完成後批評修正します。これからは絵のへの使用について現物に近い色合せや配合を進めていきたいと思つてます。

テニス愛好会



入会歓迎!!
練習 二三回程度/月
(二時間/回)
場所 豊島公園
テニスコート
会費 五〇〇円/月
世話係 藤田泰通(三班)
六八四五―一七八四

文芸サークル

機関誌「うるおい」発刊に寄せて

第十八班 金子 勝蔵

平成十一年九月同好の会員が集い文芸サークルが発足しました。年一回、同人誌「うるおい」を発刊することになり、平成十二年度総会開催日に、皆様にご批判いただくよう、創刊号を急ぎ発刊いたしました。今後俳句、短歌、小説、随筆、雑文など文学全般にわたる作品を発表してゆきたいと考えております。
さて、老若男女の区別なく、脳細胞は、ある期間を過ぎ役目を終えると消滅し、新しい活力ある細胞が再生され、いわゆる新陳代謝

が行われます。

若い人の場合は、再生された細胞も多く、その為思考力、記憶力が向上します。一方高齢者は消滅する細胞が多く、老人の症状があらゆる面であらわれます。最悪の場合が呆けです。大変悲しい状態ですが現実です。

では、これを防ぐにはどうしたら良いでしょうか。頭脳を鍛えることです。文章を読み、書き、俳句、短歌を考えることです。頭脳は使えば使う程活性化します。

手つ取り早い方法としては、テレビの画面で見た人の名前を、想い出すことから初めましょう。

「あれ」「これ」と言う抽象的な言葉は危険です。ハッキリと、そのものを表現するよう努力することです。体力を強化することは、大変大切なことです。然しジョギングなど過度の運動は、即疲労につながります。高齢者の疲労は危険をとまいません。話しが本筋から外れましたが、頭脳を鍛えることは体力増強より大切なことです。これこそ若さを保つ秘訣だからです。文学に親しむことは、どうも苦手と考える方は日常の会話を文字にするだけです。これは誰にでも出来ることです。
さあ、あなたも文芸サークルに参加しましょう。お待ちしております。

想いのたけをふみに託して…

俳句

第二班 平ノ上 砂子

手を手術した夜

短夜のなかなか明けぬ

いたさかな

かぎす手に命もどりし

夏

ふるさとは昔変らぬ

岩清水

第十班 朝倉 幸子

幼子の夜半の柔息

春嵐

花の季逝きし友にと

さくらんぼ

折々に優しき友よ

桜草

第四班 村井 實代子

涼しさや軒の風鈴

声やまず

梅雨晴のいずこも同じ

布団干す

短歌

第四班 村井 實代子

かき氷 孫にせがまれ 旧式の汗を流して 昔の思出を

今年も盆 三世代寄合

在し夫の思出話 花ざかり

終戦日 今日の平和を 思うたび

若き犠牲の 上にあるなり

第二班 平ノ上 砂子

金婚の 記念のバラは 今もなお

うすきピンクの 花つぎつぎと

やわらかき うすきピンクの

バラ見れば 嫁ぎしころの

若さなつかし

半身不随の夫を看て

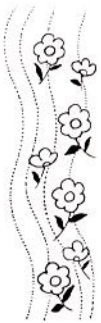
我右手 にぎり返せし 夫の手に

強き力の まだのこりおり

半身不随の夫を看て

我右手 にぎり返せし 夫の手に

強き力の まだのこりおり



園芸に、従事している会員さん进行现场にお訪ねして

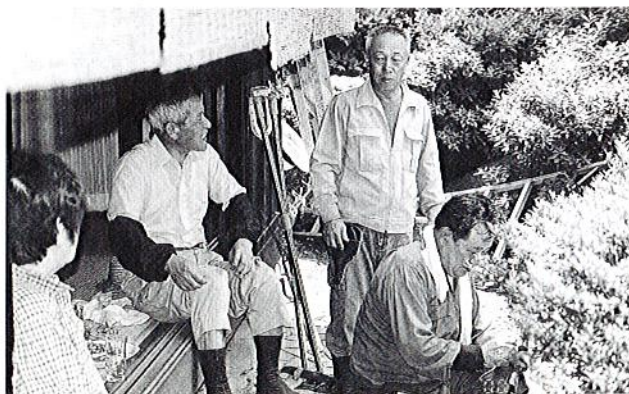
第四班 徳永美恵子

茹だるような暑い暑さの或る日、私は、今回の取材を岡田南一丁目・K様宅にお邪魔をした。
丁度休憩時間でお揃いのところを、ご挨拶もそこそこに、早速目につく立木・お花の名前を覚えて頂く。落ちついたお庭には、金木犀、ひいらぎ、棕櫚、檉・ヒマラヤヤシ・青桐、山茶花、平戸躑躅・桜、紅葉、松等々。松の剪定が出来ると一人前の扱いとか。一寸聞いた話だが、松は力ネクイマツと言つて手入れの出費が大変とも聞く。道から覗く屏越しの見越しの松の枝ぶりは思わず足が止まる。
盆裁展に見る松には個性がひかる。昔から松は縁起が良く、長寿の証とも言う。しかし、海岸沿いの美しい松林の景色も今は少ない。



私は“ふれあい”帽子

次に作業についての質問をあれこれ寒肥の時期は、一月下旬から二月の上旬迄。三・四・五月迄は開散期で仕事は六月頃から十二月で完了。作業後の剪定とゴミの処分は一袋、一束を、二〇〇円で回収。運転班の井上さん、中川さんがセンターのバッテリー車で大活躍だ。市内原田にあるクリンランドへ。加えて作業道具の持ち込み、回収も運転班の仕事。ご苦労様です。因にセンターでは剪定の講習会を定期的に行う。講師は、大阪府公園都市緑化協会から来て下さるとの事。最後に核心に迫る質問を、私は緊張の思いでお聞



きする。皆さんのお話では、暑い場所の仕事が多いので、一に健康で体力があること。
一に、汚れ仕事だから、それが気になるようでは駄目。最後は、高い所の作業が多いので、高所恐怖症は先づあかんなあ。慣れるより慣れる。何事も其の気になれば身につくと思いつつせとの言葉。短い休憩時間を惜しむように作業が始まると、周囲の静けさのなか、狭の音だけが、強く耳に残る。脚立の上で、身軽に作業を進める皆さんの帽子の下の顔は、玉の様な汗が目の中に流れる。首に巻いたタオルにもさぞ汗がポトポトだろう。縁側に座り、作業の進行を見ていた私は、大きな声で、皆さんにお礼をのべると、お宅を後にした。今日の取材で思つた事は、酷暑の中で働く作業の厳しさに、考える事いっぱいのお取材だった。